



ホームページで当社に関する
様々な情報がご覧いただけます。

ホームページアドレス
<http://www.furuyametals.co.jp/>

 株式会社フルヤ金属

株主の皆さまへ

第43期事業のご報告

2010年7月1日から2011年6月30日まで

 株式会社フルヤ金属

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-37-5 MSB-21南大塚ビル
TEL. 03-5977-3388 FAX. 03-5977-3371

中期的展望に立って「積極経営」を推進しています。 —材料の安定調達体制を強化し、グローバルに新規顧客を開拓—

厳しい環境下で堅調な業績、配当は1株当たり40円に

当事業年度(2011年6月期)の経済環境は、前半はエコカーや省エネ家電関連の補助見直しによる駆け込み需要もあって設備投資は堅調でした。しかし、米国や欧州経済の回復が遅れ、後半に入って急激な円高が進むなど予断を許さない状況となりました。そうした中で、電子デバイスの需要は総じて堅調で、当社でもLED(発光ダイオード)基板製造用シリジウムルツボをはじめ着実に実績を伸ばしてまいりました。

ところが、3月11日に東日本大震災が発生し、当社もつくば工場、土浦工場、仙台営業所が被災しました。幸い被害は軽微で約1週間後には生産体制が復旧いたしました。震災によるサプライチェーンの寸断、海外取引先を含めた発注調整、さらに円高の進行などにより、第4四半期は受注・販売ともペースダウンを余儀なくされました。

この結果、当期の業績は、売上高35,172百万円(前期比42.6%増)、営業利益4,448百万円(同3.9%減)、経常利益4,184百万円(同8.7%減)、当期純利益3,615百万円(同5.5%増)となりました。

なお、配当につきましては、当社は株主様に対する利益還元を経営の重要な柱とし、安定的な配当継続と、企業体質強化・積極的な事業展開に備える内部留保の充実などを勘案しつつ、総合的に決定する方針であります。

当期につきましては、業績の状況を踏まえ、前期の配当実績

(1株当たり20円)に対して20円を増配し、1株当たり40円とさせていただきます。

シリジウムルツボ、銀合金ターゲットが牽引

主力製品では、省エネ性に優れたLED電球や、LEDをバックライトに採用した液晶テレビ・ディスプレイ、パソコンなどの需要拡大により、LED基板用単結晶育成装置向けシリジウムルツボが大きく伸長しました。さらに、スマートフォンのタッチパネル用配線の電極材として銀合金ターゲットも製品力が高く評価されて実績を伸ばし、活発な電子デバイス需要を背景に半導体製造装置向け温度センサーも堅調に推移いたしました。

しかし、高記録容量HD(ハードディスク)向けルテニウムターゲットは、HDD(ハードディスクドライブ)需要が在庫調整局面に入って加工価格も軟化したことで、収益面で影響を受けました。化学・化成品プラント用、電子材料向けの貴金属化合物も、第4四半期に入って震災の影響などでやや伸び悩みました。

第44期に向けた重点テーマ

当社は、ハイテク、エネルギー、環境を軸に、3年、5年先を見えた事業活動を積極的に推進しています。

シリジウム関連では、LEDの量産化に向けた大型化サファイア単結晶製造に 대응する大型ルツボを開発するとともに、将来のシリジウム需要の拡大に備えた安定調達体制強化として、

2011年2月に田中貴金属工業(株)と資本業務提携契約を締結し、この増資で得られた資金の一部でシリジウム製造棟の新設や回収精製・製造設備の自動化などを進めています。加えて三菱商事(株)との資本関係の強化も図っております。

ルテニウムターゲットでは、世界的な規模でHDD業界の再編が進んでいますが、当社は有力海外メーカーへの供給を積極的に拡大し、さらなるシェアアップを目指しております。

また、化学工業や燃料電池の触媒、有機EL、ソーラーパネルなどの電極材への適用を図るため、自社研究並びに官学共同研究を強化する一方で、世界のハイテク企業ともパートナーシップを結んで、その用途開発から製品試作にわたり積極的に取り組んでいます。この一環として、2011年10月に、韓国にFuruya Metal Korea Co.,Ltd.を設立する予定です。

当社の海外売上高は年々増加していますが、今後も、幅広くグローバル展開を進めてまいります。

2012年6月期の見通しについて

2012年6月期の経済環境は、米国・ユーロ圏の財政問題と円高、中国経済の先行き、国内では原発事故に伴う電力問題や放射能汚染問題、デフレなどの懸念材料もあって、企業の設備投資が慎重になっており、しばらくは不透明な状況が続くと見えております。

そうした中でも、LEDやスマートフォンはさらなる需要拡大が見



代表取締役社長 古屋 堯民 たかひと

込まれ、シリジウムルツボ、銀合金ターゲットなどは堅調に推移すると見込んでおります。当社は、他の製品においても高機能・高品質化、コスト競争力の向上を図り、経営効率の改善、財務体質強化、人材育成強化などを引き続き推進してまいります。

第44期の業績見通しは、売上高38,450百万円(前期比9.3%増)、営業利益4,950百万円(同11.3%増)、経常利益4,750百万円(同13.5%増)、当期純利益2,820百万円(同22.0%減)を見込んでおります。

今後も株主の皆様のご期待にお応えすべく一層努力してまいりますので、さらなるご理解ご支援を、よろしくお願い申し上げます。

■フルヤ金属とPGM—その安定調達体制を強化—

プラチナグループメタル(PGM)の中で、特に希少なイリジウムとルテニウム。ハイテク分野を中心に用途が広がっています。しかし、その年間供給量は、金約4,000トン、プラチナ約200トンに対して、イリジウム約6トン、ルテニウム約30トンに過ぎません。フルヤ金属は、主産地の南アフリカの鉱山と提携して安定確保してきましたが、将来の需要増に備えて安定調達体制のさらなる強化を図っています。

LED、高記録容量HD生産に欠かせない素材

省電力のLED(発光ダイオード)電球が、家庭やオフィスに急速に普及しています。液晶ディスプレイやパソコンのバックライト、車や信号機にもLEDが使用されています。このLEDの基板になるサファイア単結晶をつくるのにイリジウムルツボが使われており、フルヤ金属が国内90%以上のシェアを確保しています。最近では、LEDの増産に向けて大型化サファイア単結晶が開発されており、イリジウムルツボも新規需要拡大と併せて大型化が進んでいます。

さらに、イリジウムは、次世代ディスプレイとして期待される有機EL(エレクトロルミネッセンス)をはじめ電子機器の電極・電

子材料として期待されています。一方、ルテニウムは、高記録容量HD(ハードディスク)に使用されており、フルヤ金属はその材料となるルテニウム・ターゲットで大きなシェアをもっています。また、ルテニウムは、化学反応を促進する触媒として、化学工業や燃料電池用酸素の製造、ソーラーパネルなどの分野で注目されています。

南アフリカ3大鉱山からイリジウムを調達

PGMは主に南アフリカで産出されており、イリジウムの約90%、ルテニウムの約75%が南アフリカで産出されています。特に、イリジウムの年間産出量はわずか6トンに過ぎません。こうした中で当社は、三菱商事(株)、南アフリカのロンミンPLCとの資本提携を含め、緊密な関係を構築してまいりました。また、インパラプラチナム社とも友好関係を築き、長期安定調達体制を確立しております。

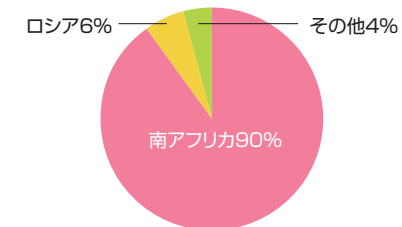
さらに将来のイリジウムの需要拡大に備えて、2011年2月に国内トップの貴金属取扱量を誇る田中貴金属工業(株)と資本業務提携を結び、アングロプラチナム社からも調達する

ルートを確保しました。これにより、フルヤ金属は、南アフリカの3大鉱山(3社合計で世界供給量の80%を産出)すべてからの安定調達に努めてまいります。

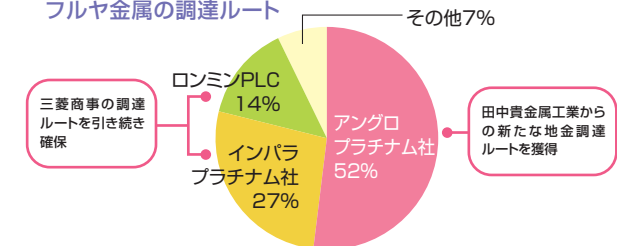
ハイテク新分野の需要にこたえて

フルヤ金属の強みは、PGMの原料調達から加工、精製、回収にわたる一貫体制を築いてきたことにあります。PGMや貴金属に関する研究開発も積極的に行っており、高純度・高品質の金属化合物製品を開発する一方で、世界のハイテク企業と連携してその用途開発にも幅広く取り組んでいます。そうした事業を広げていくためにも、イリジウムだけでなく、ルテニウム、ロジウム(温度センサー、触媒などに利用)、プラチナ(ガラス溶融装置などに利用)などについても、安定調達体制の強化に、一層力を入れていくことにしています。

■2010年 イリジウム国別供給



■2010年 南アフリカ鉱山会社別イリジウム産出量とフルヤ金属の調達ルート



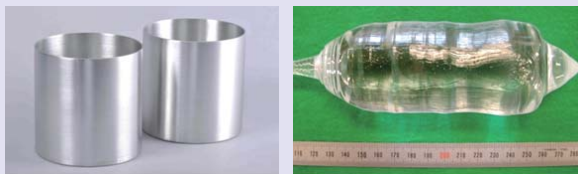
(Johnson Matthey Platinum 2011より)

Topics

経済産業省からイリジウムルツボ設備導入に補助金

経済産業省は、安定調達が困難になっているレアアースの使用量低減・代替につながる事業、リサイクルなどの促進を目的に、「レアアース等利用産業等設備導入補助金」の対象事業を公募し、その一環として、平成22年度採択事業の一つとして、フルヤ金属が選ばれました。補助金額としては対象設備投資額の2分の1が予定されています。

イリジウムルツボとサファイア単結晶



業績の概況

第43期(2011年6月期)は、米国や欧州経済の回復が遅れたものの、国内経済はエコカー、エコポイントなどの経済施策が一定の効果をあげ、設備投資も伸びてきました。しかし、3月11日に発生した東日本大震災による被害、原発事故に伴う電力使用制限などの影響で、第4四半期に入って輸出・個人消費が鈍化しました。

当期の業績は、売上高35,172百万円(前期比42.6%増)、営業利益4,448百万円(同3.9%減)、経常利益4,184百万円(同8.7%減)、当期純利益3,615百万円(同5.5%増)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

■電子

世界的なLED需要の拡大を背景として、LED基板用サファイア単結晶育成装置向けイリジウムルツボの受注が好調に推移、また、光学ガラス向け溶解装置関連の白金ルツボも堅調に推移いたしました。

当期の売上高は15,486百万円(前期比123.6%増)、売上総利益2,973百万円(同83.0%増)となりました。

■薄膜

スマートフォン用タッチパネル配線向け銀合金ターゲットの受注が好調に推移いたしました。しかし、HDの記録容量増大用ルテニウムターゲットは、HDDの在庫調整による受注の減少や加工費の値下げに加え、震災後、海外取引先の発注調整や急激な円高の影響などにより、特に収益面が厳しくなりました。

当期の売上高は13,261百万円(前期比3.4%増)、売上総利益2,075百万円(同44.5%減)となりました。

■センサー

半導体製造装置メーカーの好調な出荷に支えられ、同製造装置向け温度センサーが堅調に推移し、震災後の復興に伴う需要が一時的ながら拡大いたしました。

当期の売上高は1,894百万円(前期比48.3%増)、売上総利益584百万円(同92.1%増)となりました。

■その他(ケミカル製品・回収精製)

第3四半期までは、化学・化成品プラント用触媒向け貴金属化合物の受注が増加し、電極材料向け貴金属化合物の受注も総じて堅調に推移いたしました。第4四半期に入って震災の影響等でペースダウンを余儀なくされました。

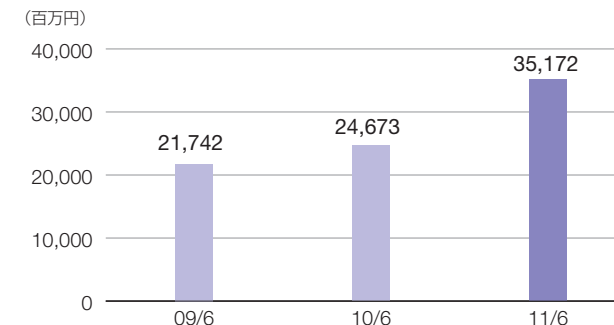
当期の売上高は4,530百万円(前期比24.5%増)、売上総利益692百万円(同16.3%減)となりました。

■海外売上高

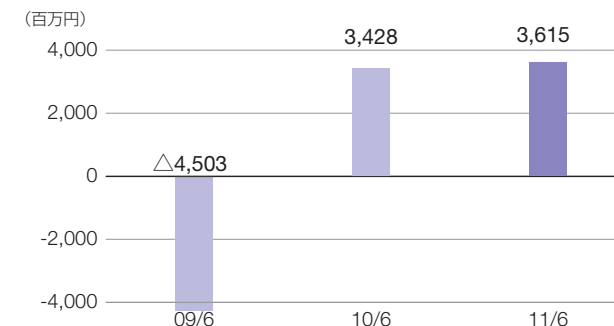
当期の海外売上高は6,407百万円(前期比15.8%増)で、総売上高に占める割合は18.2%となっております。

データハイライト

■売上高

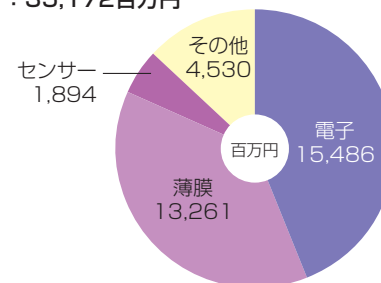


■当期純利益

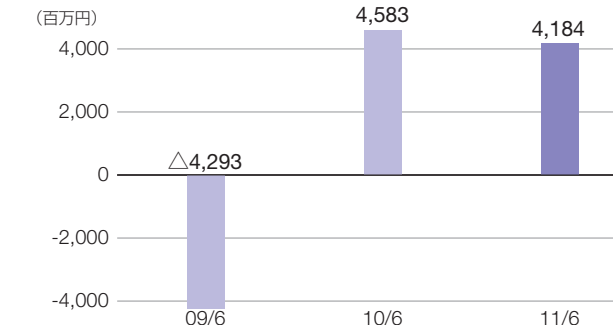


■セグメント別売上高

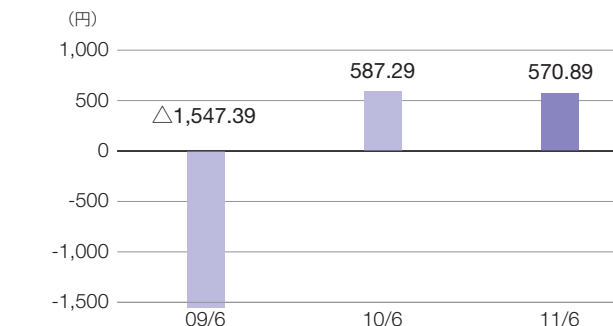
合計：35,172百万円



■経常利益



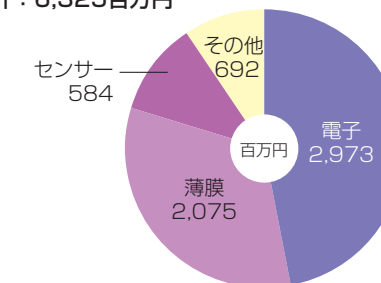
■1株当たり当期純利益



(注) 2010年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。2011年2月25日付で田中貴金属工業(株)を割当先とした第三者割当による株式1,416,000株を発行しております。

■セグメント別売上総利益

合計：6,325百万円



財務諸表の要旨

貸借対照表

科目	前期	当期
	2010年6月30日	2011年6月30日
(資産の部)		
流動資産	22,844	27,521
現金及び預金	763	4,206
受取手形	85	139
売掛金	5,674	3,549
たな卸資産	15,649	19,030
前払費用	63	61
繰延税金資産	60	53
未収消費税等	520	463
その他	25	16
固定資産	5,347	6,328
有形固定資産	5,063	6,049
無形固定資産	147	155
投資その他の資産	136	123
投資有価証券	11	8
その他	123	114
資産合計	28,191	33,849

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2010年6月30日	2011年6月30日
(負債の部)		
流動負債	16,347	11,119
買掛金	4,672	5,901
短期借入金	9,000	1,700
1年以内返済予定長期借入金	1,130	1,293
その他	1,542	2,221
固定負債	3,581	4,023
長期借入金	2,642	3,060
その他	936	959
負債合計	19,929	15,142
(純資産の部)		
株主資本	8,265	18,689
資本金	1,903	5,445
資本剰余金	1,872	5,414
利益剰余金	4,495	7,993
自己株式	△ 5	△ 163
評価・換算差額等	△ 3	—
純資産合計	8,262	18,707
負債純資産合計	28,191	33,849

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2009年7月1日～ 2010年6月30日	2010年7月1日～ 2011年6月30日
売上高	24,673	35,172
売上原価	18,177	28,847
売上総利益	6,496	6,325
販売費及び一般管理費	1,867	1,876
営業利益	4,629	4,448
営業外収益	105	25
営業外費用	151	289
経常利益	4,583	4,184
特別損失	307	92
税引前当期純利益	4,275	4,092
法人税等	846	476
当期純利益	3,428	3,615

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2009年7月1日～ 2010年6月30日	2010年7月1日～ 2011年6月30日
営業活動によるキャッシュフロー	△ 1,756	4,192
投資活動によるキャッシュフロー	△ 155	△ 708
財務活動によるキャッシュフロー	2,338	△ 40
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3	△ 0
現金及び現金同等物の増減額	423	3,442
現金及び現金同等物の期首残高	329	753
現金及び現金同等物の期末残高	753	4,196

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書 当期(2010年7月1日から2011年6月30日まで)

(単位:百万円)

科目	株主資本					評価・換算 差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2010年6月30日残高	1,903	1,872	4,495	△ 5	8,265	△ 3	—	8,262
当期変動額								
新株の発行	3,541	3,541			7,083			7,083
剰余金の配当			△ 116		△ 116			△ 116
当期純利益			3,615		3,615			3,615
自己株式の取得				△ 158	△ 158			△ 158
自己株式の処分			0	0	0			0
株主資本以外の項目 の当期変動額						3	17	21
当期変動額合計	3,541	3,541	3,498	△ 157	10,423	3	17	10,445
2011年6月30日残高	5,445	5,414	7,993	△ 163	18,689	—	17	18,707

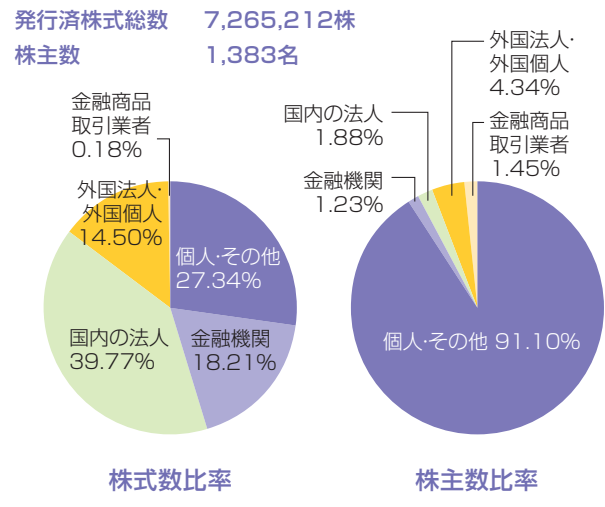
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要 (2011年6月30日現在)

商号 株式会社フルヤ金属
創業 1951年(昭和26年)3月
設立 1968年(昭和43年)8月22日
資本金 5,445,119千円
従業員数 264名

役員
 代表取締役 古屋 堯民
 取締役 吉田 隆夫
 取締役 郷 文明
 取締役 島崎 一夫
 取締役 丸子 智弘
 取締役 塩原 恵一
 取締役 アルバート・ジェイミソン
 監査役 大田垣 吉展
 監査役 山内 喜久夫
 監査役 福嶋 弘榮
 執行役員 河又 隆
 執行役員 大石 一夫

株式の状況 (2011年6月30日現在)



大株主一覧 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三菱商事株式会社	1,452	19.98
田中貴金属工業株式会社	1,416	19.49
古屋 堯民	788	10.85
ロンミンピーエルシー	400	5.50
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	316	4.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	305	4.19
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイロンドンエスエル オムニバスアカウント	164	2.26
株式会社三菱東京UFJ銀行	140	1.92
野村信託銀行株式会社 (投信口)	118	1.63
古屋 圭紀	104	1.43

株主メモ

事業年度 7月1日～翌年6月30日
期末配当金受領株主確定日 6月30日
中間配当金受領株主確定日 中間配当を行う場合12月31日
定時株主総会 毎年9月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711(通話料無料)

上場証券取引所 株式会社大阪証券取引所
公告の方法 電子公告により行います。
 公告掲載URL <http://www.furuyametals.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。